

リサーチ・アドミニストレーター協議会 発足に向けて

第4回URAシンポジウム／第6回RA研究会
RA研究会全体セッション資料より改編

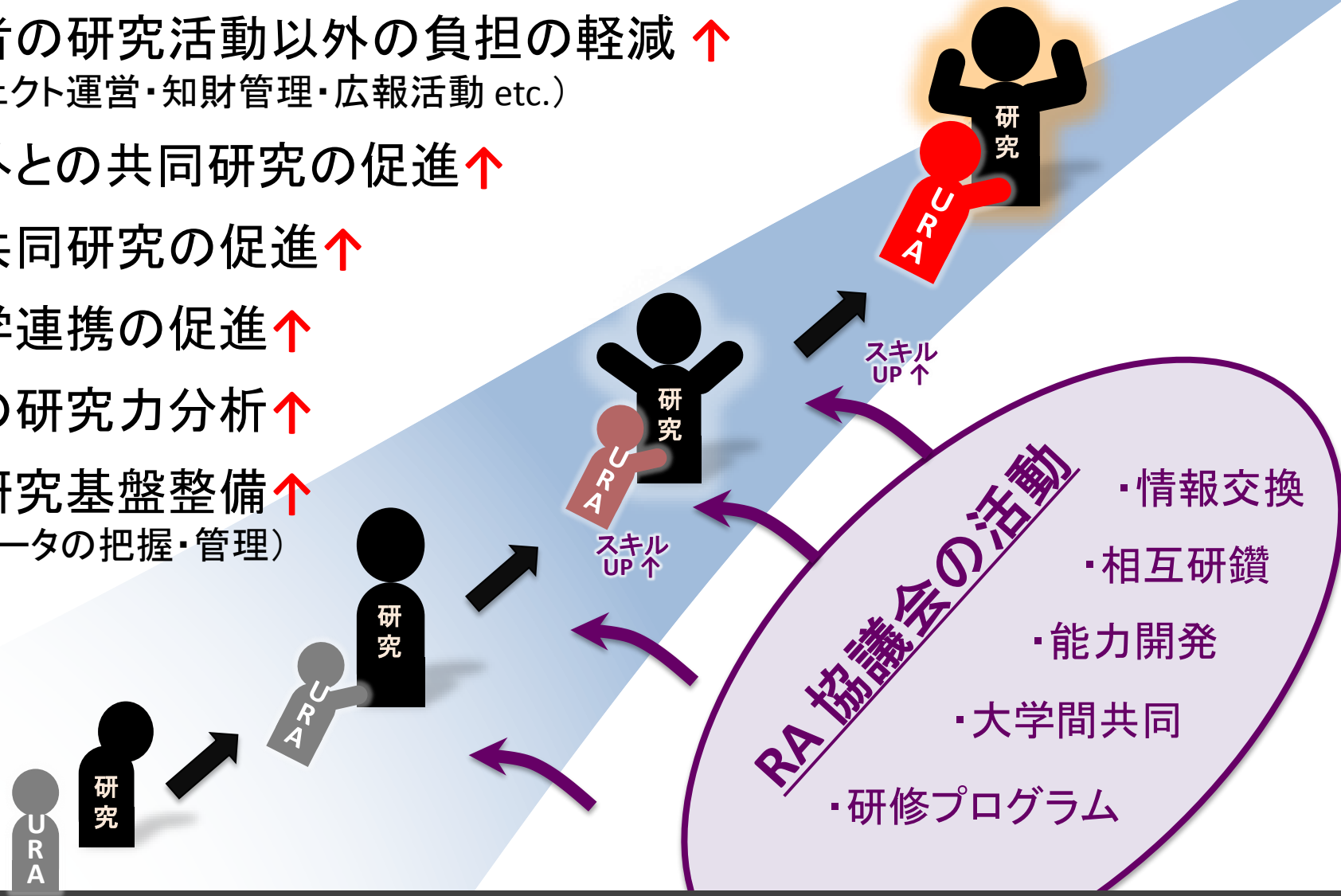
リサーチ・アドミニストレーターらのための 全国的ネットワーク組織形成の意義

- ◆ 個々の「大学」研究力強化への貢献
- ◆ URA実務者の能力向上への貢献

実務者のネットワーク形成を、全国の各機関が組織的に支援していくことが必要

個々の「大学」研究力強化への貢献

- ・研究者の研究活動以外の負担の軽減 ↑
(プロジェクト運営・知財管理・広報活動 etc.)
- ・学内外との共同研究の促進 ↑
- ・海外共同研究の促進 ↑
- ・産官学連携の促進 ↑
- ・大学の研究力分析 ↑
- ・学内研究基盤整備 ↑
(学内データの把握・管理)



RA協議会のネットワークを通じて強化される URA の能力

URA実務者の能力向上への貢献

専門人材としての俯瞰的視野の獲得・向上

- (個人の集合体ではない)組織としての継続性、信頼性
- 知識体系の確立・更新、スキル向上
- URA関連業務従事者を含むキャリアパスの展開

継続的なURA実務者へのスキルUP教育

- 新規採用者への知識体系の教育、技能トレーニング
- 小規模大学など一機関で実施が困難な組織での展開

大学の特徴把握とその手法の確立、向上

- 個々の組織の特徴把握から研究力強化へ

政府系研究開発制度(公的研究資金による)の理解促進

- 政策等を踏まえた事業の計画、実施、規程の遵守

RA協議会設立に向けた活動経緯と今後

2009年
学術研究懇談 (RU11)
URAを育成・確保につ
いての議論がスタート

2011年 文部科学省
「URAを育成・確保する
整備事業」スタート

主幹校 東京大学
第1回 URA シンポ

主幹校 名古屋大学
第2回 URA シンポ

第3回 URA シンポ / 第5回 RA 研究会 合同大会
(主幹校 大阪大学 & 京都大学)

第4回 URA シンポ / 第6回 RA 研究会 合同大会
(主幹校 北海道大学)

RA 協議会
年次大会

- ・スキルアップ
- ・相互研鑽
- ・事例蓄積
- ・情報交換
- ・キャリアパス
- ・評価、組織設計
など

2009

2010

2011

2012

13

14

2015

2016

RA 研究会
第1回
48人

第2回
66人

第3回
94人

第4回
203人

約600人

2014年9月
17&18日

関連活動との連携

- ・大学事務職員
- ・産学連携関係

UNITT,(2008年～)
地域・中小大学URA勉強会、
私学連盟、大学事務職員勉
強会等
関連の活動

事業採択校メン
バーを中心にネット
ワーク組織設立に
向けた議論を開始

RA協議会設立にむけた検討経緯

第1回合同大会

第2回合同大会

RA協議会
年次大会

2013年度

2014年度

2015年度以降

11月18&19日

第3回URAシンポ
/第5回RA研究会
合同大会

19日最終セッション:
・ネットワーク組織
設立検討開始と参加
のよびかけ

URAネットワーク
設立準備委員会
3月10日発足

・2014年2月末ま
での賛同者のうち、
「所属組織から了解
の下」設立準備に
参画するメンバー
22機関から構成。

・2014年4月～9
月(5回の全体委員
会、その他WGLE
レベルの検討を進めた)

9月17&18日

第4回URAシンポ
/第6回RA研究会
合同大会

登録約550人

18日最終セッション:
・RA協議会設立準備
会の設置
・会員加入の呼び
かけ開始

第1回設立総会
年度内に予定

RA協議会

運営委員会

理事会的な機能

年次大会
企画・運営委
分科会

情報発信
分科会

スキルプロ
グラム
分科会

・会員制度、年会費制
度を計画
・主に組織会員による
運営
・事務局担当大学

大会開催経費の考え方

2013年度

・URA整備事業費

2014年度

・「URA整備事業費」との連携

2015年度以降

・年次大会は会員の年会費より支出
・年次大会の参加費制度、企業の賛
助制度も検討

協議会の主たる活動(案)

分科会活動

- 年次大会企画・運営分科会

年次大会の企画・実施を担う。財政規模をふまえた実現可能な規模感を重視し、一組織に過度の負担がかからない継続可能な運営形態を検討していく。
また、スキルプログラム分科会と連動し、単年度の大会実施に閉じず、持続性のある教育研修の場となるようプログラム企画を行う。

- 情報発信分科会

協議会の活動全般を発信するWebコンテンツの編集企画、および内容の適否をチェックするレビュー機能の両方を担う。

- スキルプログラム分科会

協議会への期待として、リサーチアドミニストレーターの基準策定、能力把握、将来的な資格認定制度の要望は高い。H21～23年度に作成されたスキル標準(東京大学受託)、教育研修プログラム(早稲田大学受託)を活用し、能力把握とその指標、将来的には資格認定につながるプログラムの検討・実施を担う。

協議会の会員制度(案)

会員種別(対象)	年会費	会員のメリット
組織会員 (大学・研究機関)	20万円	<ul style="list-style-type: none"> ・RA協議会の運営および分科会に参画。 ・協議会活動を通じた高いPR効果： <ul style="list-style-type: none"> － WEBページに組織会員の紹介枠。 － 年次大会受付付近にパンフ等設置。(予定) ・会員向けWEBコンテンツの閲覧。(予定)
個人会員 (組織会員機関所属)	2千円	<ul style="list-style-type: none"> ・年次大会参加料は非会員:1万円/1人のところ 5千円/1人に割引予定。
個人会員 (組織会員以外の機関に所属するRA)	1万円	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会参加が可能で、URAに必要なマネージメント スキルの向上が期待できる。 ・会員のためのWEBコンテンツ(年次大会でのセッション 発表資料など)の閲覧が可能。 その他検討予定の特典 <ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジンの送信、URA関連情報冊子の無料收受など ・研修参加費の割引
賛助会員 (企業・関連団体)	50万円	<ul style="list-style-type: none"> ・年次大会等で組織の事業PR可能。 ・協議会のWEBサイトへのリンク貼付。

本協議会への参加 ご検討をお願いします

会員募集に関する情報は、今年度中は、
リサーチ・アドミニストレーション研究会HPでお知らせします。
<http://jram.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

組織会員は募集を開始しています。
個人会員は2月頃から募集開始予定です。

お問い合わせはこちらまで

RA協議会設立準備会事務局
金沢大学 先端科学・イノベーション推進機構

rac@adm.kanazawa-u.ac.jp